

陸連時報 三

2013
平成25年 12 月号

題字は平沼亮三(初代陸連会長)の書

目 次

強化関連情報	
第6回東アジア競技大会(2013/天津)報告	198
第21回世界ハーフマラソン選手権大会(2014/コペンハーゲン)	
代表選手選考要項	202
JOC「体育の日」スポーツ祭り2013 スポーツ教室「陸上競技」開催報告 (普及育成委員会 豊田裕浩)	203
アジア陸上競技連盟(AAA)カOUNシル会議報告 (国際委員長 田中克之)	204
2013年度「キッズアスリート・プロジェクト 夢の陸上キャラバン隊」の開催について(事務局)	206
2013数字で見る陸上競技Vol.3 都道府県別日体協公認指導者数(陸上競技)	208
2013数字で見る陸上競技Vol.4 都道府県別高校生陸上競技部員割合	209
大会観戦ガイド	210
陸協NEWS	212
事務局からのお知らせ	214

公告

「陸連時報」は公益財団法人日本陸上競技連盟定款第4条第6号の「機関誌」の性格を有するものですが、毎月「陸上競技マガジン」と一体として発行しています。陸上競技に関する啓発記事のほか、必要に応じて、評議員会、理事会の決定事項、各専門委員会、事務局からの報告、通達も掲載いたします。本時報に掲載した通達は、公式に通達したものと取扱わさせていただきますので、登録競技者は本時報の掲載内容にご注意下さい。また、陸上競技指導者の方は、所属競技者にお知らせ下さるようお願い致します。

公益財団法人日本陸上競技連盟

強化関連情報

強化委員会

第6回東アジア競技大会（2013／天津）報告

大会期日：2013年10月7日（月）～10月9日（水）

開催地：天津（中国）

<役員 16名>

No.	役職	氏名
1	監督	原田 康弘
2	ヘッドコーチ	山崎 一彦
3	コーチ（男子短距離）	小島 茂之
4	コーチ（男子短距離）	小坂田 淳
5	コーチ（女子短距離）	瀧谷 賢司
6	コーチ（ハードル）	櫻井 健一
7	コーチ（投擲）	等々力信弘
8	コーチ（跳躍）	青木 和浩
9	コーチ（跳躍）	杉本 誠
10	コーチ（男子中長距離）	高岡 寿成
11	コーチ（女子中長距離）	野口 英盛
12	ドクター	鎌田 浩史
13	トレーナー	村上 博之
14	トレーナー	吉住巳佐世
15	トレーナー	砂川 祐輝
16	渉外	平野 了

1. はじめに

第6回東アジア競技大会（2013／天津）（以下、東アジア大会）が2013年10月7日から9日までの3日間、中国・天津市で開催された。日本選手権終了後、選考競技会の成績から編成方針に基づき、2016年リオデジャネイロオリンピックに向けた若い選手を中心に男子30名・女子28名を選考した。しかし、7月には日本オリンピック委員会を通じ、組織委員会より実施競技種目のキャンセルが通知され、男子4種目（6名）、女子8種目（11名）の派遣を見送ることとなった。更に9月に入り、男子2種目、女子1種目のキャンセルが通知され、最終的には男子20名、女子16名及び役員16名の52名の選手団を派遣することとなった。女子フィールド種目においては、ほとんどの種目がキャンセルとなり、これから期待される競技者の国際経験の場を失ったことは非常に残念であった。

開催地が天津であることから、大気汚染が心配されたが、事前にマスク、うがいなど日本陸連派遣ドクターからの的確な指示のもと、対策を講じた。また、時差などの心配もなく、ホテルについても非常にきれいで、食事についてもバイキング形式で提供され、特に大きなストレスを感じることなく生活できた。

2. 競技成績目標と現状

今回の東アジア大会の目標と現状に関して、今年度のアジアのランキングから中国、韓国、チャイニーズ・タイペイなどの競技力を分析して、代表になった選手のメダル獲得の可能性を想定した。各国がどのレベルの選手を派遣するか分からない状況ではあったが、現状として金10、銀4、銅6の20個のメダル獲得を見込んでいた。また、今回は若い選手が中心であることから、目先の結果よりも思い切った戦いをするよう

に指示し、それぞれ目標達成を目指した。

3. 競技結果

東アジア大会での日本選手団の成績は、突然競技種目が取りやめになった影響で、メダル数では前回の成績を上回ることはできなかったが、金7、銀9、銅9の合計25個のメダルを獲得することができた。出場選手の数の影響で、予選が予定された種目でも一発決勝になる種目もあり、男子100m、200m、400mと女子100mだけが予選が実施された。

大会初日、陸上競技だけでなく全競技での日本選手団金メダル第一号は、女子5000mに出場した松崎璃子選手（積水化学）であった。冷静なレース展開で、独走で優勝に輝いた。男子棒高跳でも、モスクワ世界選手権で6位に入賞した山本聖途選手（中京大学）及び荻田大樹選手（ミズノ）が出場し、山本選手が5m50を一発で跳び、優勝を決めた。ボックスの角度など、日本との違いから思うような跳躍ができない中、実力通りの結果を残した。男子200mは日本選手団の主将を務める飯塚翔太選手（中央大学）とケンブリッジ飛鳥選手（日本大学）が出場した。実力ある飯塚選手に若手のケンブリッジ選手がチャレンジする展開で、後半、先行する飯塚選手を、ケンブリッジ選手が捉え1、2位でフィニッシュした。

2日目は、午前中に女子10000m決勝と男子5000m決勝が行われ、女子10000mでは清水裕子選手（積水化学）が冷静にレースを組み立て、独走で優勝。男子5000mも星創太選手（富士通）が、国際的なレースでよく見られるペースの上げ下げが激しいレース展開の中、ラスト150mからのスパートで逃げ切り優勝した。期待の男子100mに山縣亮太選手（慶應義塾大学）と若手の大瀬戸一馬選手（法政大学）が出場した。モスクワ世界選手権の準決勝で10秒00の記録で走った中国の張培萌選手は出場しなかったが、10秒06の記録を持つ蘇炳添選手が出場し、山縣選手との一騎打ちとなった。スタート良く出た山縣選手と蘇炳添選手が最後までお互いに譲ることなく競り合い、10秒31の同タイムであったが、1000分の2秒差で残念ながら山縣選手は2位であった。3位には後半しっかり粘った大瀬戸選手が入り健闘した。また、男子800mでは低迷している中距離種目で川元奨選手（日本大学）がうまいレース展開で、しっかり優勝を勝ち取った。これからの中距離界の中心となって活躍することを期待したい。2日目も3個の金メダルを獲得し、合計で6個になり最終日に期待を寄せた。

最終日は期待した種目で金メダルを逃すことが多かった。その中で、女子3000mSCでは三郷実沙希選手（スズキ浜松AC）が前半から積極的なレースをし、9分30秒02の記録を持つ李珍珠選手と互角のレースを行い、9分54秒02の自己新記録で堂々銀メダルを獲得した。女子100mHでも相馬絵里子選手（筑波大学）が前半から攻めのレースで13秒22の自己新記録で2位に入賞した。国際大会での自己記録の更新は素晴らしいことである。男女両りレーは、中国との一騎打ちになった。女子4×100mリレー、4×400mリレーはともに力及ばず2位に

終わってしまった。優勝を目指していた男子4×400mリレーは、400mの山崎謙吾選手（日本大学）、小林直己選手（東海大学）、800mの川元選手、400mHの野澤啓佑選手（早稲田大学）で臨んだ。最後の直線までアンカー野澤選手が中国をリードし、あと一歩で優勝であったが、ゴール寸前でかわされ、残念ながら2位に終わってしまった。中国の大きな壁に跳ね返され続けた中で、男子4×100mリレーでは素晴らしいパフォーマンスを見せてくれた。山縣選手、飯塚選手、ケンブリッジ選手、大瀬戸選手のオーダーでしっかりバトンをつなぎ、38秒44の日本学生新記録で金メダルを獲得し、日本男子短距離の層の厚さを感じさせたレースでもあった。

しかし、今大会でいくつかの種目においてアジアでの競技レベルが上がっていると感じた。特に、男子やり投は、日本からも期待されるディーン元気選手（早稲田大学）が出場したが、趙庆剛選手（中国）、黃士峰選手（チャイニーズ・タイペイ）が82mを投げるなど、アジアのレベルが世界レベルに近づいている種目でもある。これからより一層の強化策が必要になってくるであろう。来年、韓国・仁川でアジア競技大会が開催される。アジアの中でいかに戦えるかが、その後の世界選手権、オリンピックにつながることになる。今大会での課題などを分析し、準備を進めたい。

4. 各種目の結果報告

(1) 男子短距離

1) 100m

10秒06のベストを持つ蘇選手（中国）が出場。決勝はスタートから30mまでは山縣選手がリードしたが今大会の課題であった中間疾走で逆転され、最後は追い込んだものの同タイム着差ありで敗れた。世界選手権の故障からの復帰の意味ではここまで走れたことは評価できるが、身体面での準備不足は否めず、それに伴い技術に関してもイメージとは少々違った形で試合に現れてしまった。

大瀬戸選手は良いコンディションで臨むことができ、まだ上位2選手とは力の差があるものの0.17秒差の3位。海外経験も多くない中で今大会は満足できる走りや本人も言うようにいいきっかけになったレースだったのではないだろうか。

2) 200m

他国の強豪選手が出場せず日本選手の一騎打ちとなった。飯塚選手は3月から積極的に海外遠征を行い、ユニバーシアード、世界選手権を含め多くの試合に出場しており少々疲れが溜まっているように見えた。秋は100mの試合に出場、長い距離のトレーニングがあまりできていないとの報告も受けていたが、その影響もあって後半の失速に繋がった。ただし、日本インカレ100mでは自己ベストをマークしており、今後そのスピードを活かした世界水準の走りを期待したい。

ケンブリッジ選手は今シーズン急成長を遂げ、勢いそのままに今大会も調子を維持、自信を持ってレースに臨んでいた。前半はリードを許したものの焦ることなく自分の走りに徹し、残り30mで逆転、優勝を飾った。後半の減速が少ないことが一つの特徴で今後は前半のスピードがついてくると20秒台前半も見えてくる楽しみな選手である。

3) 400m

小林選手は、いつも通りの前半からの積極的なレースで、後半もソツなくまとめセカンドベストとなる46秒76で銅メダルを獲得した。代表デビューにも関わらず、現状の力を十分に出し切った結果といえる。但し、今大会の優勝を狙うには、もうワンランク上のスピード絶対値が必要である。今回の経験を武器にさらなる飛躍を期待したい。

山崎選手は、レース直前に左脚に違和感を発症し、出場するか否かで悩んだ結果、W-upの動きを慎重に考慮し、『出場』と判断した。ただ、スタートダッシュで踏ん張りを利かすことができず、万全な態勢からは程遠い状態になってしまい47秒40で4着という結果に終わった。今回のようなケースで、自分がどの程度走れる状態にあるか、もしくは走れない状態にあるか把握した事を今後活かしてほしい。

4) 4×100mリレー

今大会は学生記録の更新を目標として、今後の世界大会を見据えた走順で臨んだ。1～2走、3～4走でバトンパスが詰まったが結果として38秒44の学生新記録で、ライバル視していた中国、アジア選手権を制したホンコン・チャイナに大差をつけ優勝した。記録が出にくいトラックで、個々の調子を考慮すると評価できる記録となったがバトンパスについては改善点があり、今大会で見えてきた選手の特性も今後活かしていきたい。メンバー争いも熾烈となり、特性を把握したうえでメンバーを想定、パターンも多く検討していかなければならない。今後の合宿や大会でバトンパス技術を磨き、世界大会でのメダル獲得を目指す。

5) 4×400mリレーは今メンバーで考えうるベスト布陣（山崎－小林－川元－野澤）で挑み、先行逃げ切りを試みたが、最後の直線でかわされ3分7秒32の2着となった。



男子4×100mリレー

(2) 女子短距離

木村茜選手（大阪成蹊大学）は、現在の実力からはレースの流れはスムーズにいったのではないかと。今後は力みのない伸びやかな動きを追求する事に期待したい。

土井杏南選手（埼玉栄高校）は、ロンドンオリンピック前の動きを取り戻す事に期待するが、もう一度、原点に戻る必要があると感じられる。福島千里選手（北海道ハイテクAC）と土井選手がいろいろな角度から引っ張れるリーダー的存在に

なる事を期待したい。

田村友紀選手（岩手大学）は、初の遠征で戸惑う事が多かったと思うが、冷静に競技に集中していた。春のシーズンの様な勢いはなかったが、今後200m・400mを中心に成長してほしい選手である。

鳥原早貴選手（青山学院大学）は、持ち前の集中力と経験で実力を発揮した。

新宮美歩選手（東大阪大学）は、秋シーズンに入り、体調を崩した中でのレースであったが、陸上競技に対する熱意が感じられた。来シーズンの活躍に期待したい。

市川華菜選手（ミズノ）は、ロンドンオリンピック後の故障の回復が思わしくなく、計画通りのトレーニングが不足しており、本来の動きには程遠い状態であった。本人もその部分に関しては自覚しており、もう一度、彼女らしい走りを期待している。

最後に、今大会は若い力に期待するチーム構成であったが、思い通りの結果を残す事が出来なかった。今後の課題は、福島選手がリーダーとして、若い力のある選手を先導する事に期待するとともに、若い選手が、世界に挑戦するという意識を持ってもらう事が急務であると感じられる。

また、4×100mリレー、4×400mリレーの日本記録を早期に更新することが次のステージに繋がるものと痛切に確信している。

(3) 男子中・長距離

川元選手、星選手とも自己記録はランキングトップであった。

しかし、両種目ともタイムや実績においてライバルになる選手が1、2名おり、レースは慎重になる必要があった。

両選手ともラストのスピードが持ち味であるが、今大会ではどのようなレース展開にも対応できる能力は持っていた。

レースは結果的にスローペースになりラストで競り勝ち、目標であった金メダルを両選手とも獲得することができた。

5000mにおいては中盤にモンゴルのバトオチル選手が途中仕掛けるなど、1周のペースが5秒前後する時もあり、判断の難しい場面も多くあったが柔軟に対応していた。

外国人選手とラスト勝負はタイムだけで判断できない場合が多く、ギャンブル性が高くなる。この事から選手が勝負に対して柔軟に判断できる能力や経験が必要となる。

(4) 女子中・長距離

大会前は、殆どの選手が初代表若しくは初国際レースではあったが、国際舞台でも守りに入らず積極的なレース運びをして、全種目でのメダル獲得を目標とした。

結果、全選手が主導権を握るレースをしてくれ、全種目メダル獲得となった。

特に、3000mSCに出場した三郷選手の自己ベスト（日本歴代3位）は大いに評価できる内容であった。

ただ、女子中長距離界はここ数年記録の低迷が続いている現状から、今大会で試みた積極的なレース展開及び海外レースの経験を積むことが、今後、アジア大会、北京世界選手権、リオデジャネイロオリンピック、東京オリンピックに向けて重要になってくると考えられる。

その為にも、ナショナルチームとしての機能を高め、若手選

手の強化策を明確にする事が急務である。

(5) ハードル

100mHには伊藤愛里選手（住友電工）と相馬選手の2名が出場した。

相馬選手はスタートから鋭い飛び出しを見せ、中盤から後半にかけても流れを崩さずにまとめて13秒22の自己新記録で銀メダルを獲得した。今大会で自己記録を更新できたことは素晴らしく、今後大いに期待が持てる結果であった。

伊藤選手はスタートで若干出遅れたが、徐々にリズムを上げて巻き返しを図った8台目付近で脚を痛め、途中棄権となった。徐々に調子を上げてきていただけに残念な結果であった。

男子110mHには佐藤大志選手（日立化成）と矢澤航選手（法政大学）の2名が出場した。

矢澤選手はスタートから1台目の入りが1歩少ない7歩であり、前半の立ち上がり心配であったがレースでは素晴らしいスタートを切って前半はトップを走っていた。しかし中盤で追い付かれると後半はジリジリと離され13秒73の4位であった。前半が良かっただけに3位には食い込んでほしかった。

佐藤選手は膝の内側を痛めており、痛み止めを打っての出場であった。調整ではハードルを跳べず調整に苦労したが本番では前半から積極的なレースを展開し13秒91で5位とまとめることはできた。自己記録とはほど遠く、満足のいく結果ではなかったが、今できる最善は尽くしたと言える。

女子400mHには青木沙弥佳選手（東邦銀行）と芝田陽香選手（チームミズノアスレティック）の2名が出場した。青木選手は前半から積極的なレース運びをし、大きなミスもなく58秒06で2位となり銀メダルを獲得した。10台目で競り勝てた事が本番での強さを感じさせた。芝田選手は前半の遅れが響き、得意の後半で巻き返したがメダルにはあと一步届かず58秒78の4位であった。今後は前半の強化が課題であろう。

男子400mHは野澤選手が出場した。野澤選手は国体に出場してから現地入りをし本大会に出場した。国体の結果から走りの修正をしたがうまくいかず前半からの流れが悪かったように感じた。前半、中盤とやや遅れ50秒61の3位でフィニッシュ。銅メダルは獲得したが、本来であれば優勝争いができただけに残念であった。今回の経験を糧にして大きく成長してほしい。

(6) 跳躍

東アジア大会の選手派遣について、跳躍ブロックでは①「若手の育成（U-23）」、②「次世代のリーダー育成」という側面からの派遣を行った。

①については、山本選手・大岩雄飛選手（モンテローザ）・嶺村鴻汰選手（筑波大学）・松下翔一選手（筑波大学）、②については、荻田選手・山本選手（世界大会の経験を有している）という位置づけであった。

跳躍種目の場合、東アジア大会においても、世界クラスの中国選手がいるため、記録はもとより、メダル獲得を目標に掲げた。

1) 男子棒高跳

目標は、山本選手・荻田選手ともに表彰台（メダル獲得）であり、金と銅メダルと目標は達成された。小ぶりなボックスという極めてまれな試合であったが、山本選手は、世界選手



男子 棒高跳

権入賞の実力をいかに発揮した。また、萩田選手の踏切のスタイルでは、今回のボックスによって大きなマイナスの影響が出ていたが、3本目であるが5m30を跳躍したことは、評価したい。

2) 男子走幅跳

大岩選手・嶺村選手とともに表彰台を目指した。中国選手2名とも自己記録が8m以上、韓国の選手も明らかに、日本選手より実力があり、十分な力が発揮されれば、両名の表彰台は可能であると予測していた。結果としては、大岩選手が7m64で銅メダル、嶺村選手が7m62で4位であった。記録こそ良くなかったが、十分な力を発揮したと評価したい。

3) 男子三段跳

目標は、銅メダル獲得であった。自己記録が17mを超える

第6回東アジア競技大会 (2013/天津) 期日: 2013年10月7日~9日 (天津・中国) は当該ラウンドがないことを示す

男子	種目	氏名	所属	自己ベスト	日付	予選	決勝	日付	決勝
1	100m	山縣 亮太	慶應義塾大学	10.07	10/8	10.43 (1/2h) -1.6m/s	決勝進出	10/8	10.31 -0.1m/s 2位 大会タイ記録
2	100m	大瀬戸 一馬	法政大学	10.23	10/8	10.54 (1/1h) -0.5m/s	決勝進出	10/8	10.48 -0.1m/s 3位
3	200m	飯塚 翔太	中央大学	20.21	10/7	21.26(1/h1) -0.2m/s	決勝進出	10/7	21.01 -0.3m/s 2位
4	200m	ケンブリッジ 飛鳥	日本大学	20.62	10/7	21.45(1/h2) +0.1m/s	決勝進出	10/7	20.93 -0.3m/s 優勝
5	400m	山崎 謙吾	日本大学	46.00	10/8	50.81 (3/2h)	決勝進出	10/8	47.40 4位
6	400m	小林 直己	東海大学	46.89	10/8	47.83(1/1h)	決勝進出	10/8	46.76 3位
7	800m	川元 奨	日本大学	1:46.89				10/8	1:53.18 優勝
8	5000m	星 創太	富士通	13:43.66				10/8	14:25.00 優勝
9	110mH	矢澤 航	法政大学	13.59				10/9	13.73 -0.2m/s 4位
10	110mH	佐藤 大志	日立化成	13.61				10/9	13.91 -0.2m/s 5位
11	400mH	野澤 啓佑	早稲田大学	49.15				10/7	50.61 3位
12	棒高跳	山本 聖途	中京大学	5.74				10/7	5m50 優勝
13	棒高跳	萩田 大樹	ミスノ	5.70				10/7	5m30m 3位
14	走幅跳	大岩 雄飛	モンテローザ	7.78				10/7	7.64 3位 +0.6m/s
15	走幅跳	嶺村 鴻汰	筑波大学	7.79				10/7	7.62 4位 +0.1m/s
16	三段跳	松下 翔一	筑波大学	16.25				10/8	14m92 (+0.2m/s) 4位
17	砲丸投	畑瀬 聡	群馬総合ガードシステム	18.30				10/8	17m10 5位
18	ハンマー投	柏村 亮太	日本大学	67.25				10/7	63.06 4位
19	やり投	ディーン 元気	早稲田大学	84.28				10/9	77m35 3位
20	やり投	高力 裕也	鳥取AS	77.84				10/9	74m09 4位

4×100mリレー	決勝期日	10月9日	出場オーダー	山縣-飯塚-ケンブリッジ-大瀬戸	順位	1位・優勝	記録	38.44 大会新記録
4×100mリレー	決勝期日	10月9日	出場オーダー	山崎-小林-川元-野澤	順位	2位	記録	3:07.32

女子	種目	氏名	所属	自己ベスト	日付	予選	決勝	日付	決勝
1	100m	土井 杏南	埼玉栄高校	11.43	10/8	12.06 (3/2h) -1.0m/s	決勝進出	10/8	12.02 +0.6m/s 4位
2	100m	木村 茜	大阪成蹊大学	11.77	10/8	11.98 (2/1h) -1.2m/s	決勝進出	10/8	11.99 +0.6m/s 3位
3	200m	田村 友紀	岩手大学	23.93				10/7	24.79 4位 -0.7m/s
4	400m	鳥原 早貴	青山学院大学	53.79				10/8	54.92 3位
5	400m	新宮 美歩	東大阪大学	53.66				10/8	56.62 4位
6	800m	伊藤 美穂	順天堂大学	2:05.30				10/8	2:11.07 2位
7	1500m	森 智香子	大東文化大学	4:17.76				10/7	4:20.04 3位
8	5000m	松崎 璃子	積水化学	15:26.05				10/7	16:09.72 優勝
9	10000m	清水 裕子	積水化学	32:07.70				10/8	32:50.42 優勝 ・大会新記録
10	3000mSC	三郷実沙希	スズキ浜松AC	10:06.22				10/9	9:54.02 2位 大会新記録 PB
11	100mH	伊藤 愛里	住友電工	13.27				10/9	途中棄権
12	100mH	相馬絵里子	筑波大学	13.34				10/9	13.22 +0.7m/s 2位 PB
13	400mH	青木沙弥佳	東邦銀行	56.68				10/7	58.06 2位
14	400mH	芝田 陽香	チームミスノ アスレティック	57.68				10/7	58.78 4位
15	砲丸投	茂山 千尋	国士館クラブ	15.29				10/7	14.54 5位

4×100mリレー	決勝期日	10月9日	出場オーダー	土井-木村-市川-田村	順位	2位	記録	45.17
4×100mリレー	決勝期日	10月9日	出場オーダー	青木-鳥原-芝田-新宮	順位	2位	記録	3:40.55

中国選手2名以外は、16mジャンパーは松下選手のみで順当に試合ができれば、表彰台は確実であった。しかしながら、松下選手は14m92の4位と自身のシーズンベスト16m19に遠く及ばない結果であった。初めての海外での試合ということもあり、今回の失敗を教訓にしてほしい。

(7) 投擲

1) 男子砲丸投

畑瀬聡選手(群馬総合ガードシステム)は、腰に不安を持ちながらの出場であったが、ベテランらしく現地での試合に向けての調整トレーニング、試合中の技術面の修正力など駆使し、現在の力は発揮した結果といえる。今後は日本のトップ選手として来年のアジア大会などに向けての活動と、今後も若手を引っぱる立場での活動も期待したい。

2) 男子ハンマー投

柏村亮太選手(日本大学)は、今回初のシニア日本代表で少し力みも有り、試合前半は自身の力を発揮する事が出来ず、苦しい試合だった。後半で幾分持ち直し、63m台の記録で4位の結果は少し残念な結果ではあったが、今後の伸びしろなどを考えると可能性のある選手であるので、今回の経験を活かし、70m台の記録を出すために必要な技術面のトレーニングを冬期に実施し、来期につなげてほしい。

3) 男子やり投

ディーン選手については、シーズンベストを目標に大会に参加したが、体調面で不安のある状態での参加になり、満足の出来る結果を出す事はできなかった。

試合中に技術的な修正箇所も修正するなど試合の組み立ても出来ていたため、現状で出せる力は出せたと考えられる。今シーズンは故障に悩まされたシーズンであったので、来期に向けては十分な準備で臨んでくれる事を期待したい。

高力裕也選手(鳥取AS)については、東京国体との連続出場だったが、コンディショニング的には悪くない状態で現地入りした。ある程度の記録を期待しての出場だったが、試合では構えから投げの局面で、上半身と下半身の方向性が合わず、試合中この部分の修正をしつつ試合を進めたが修正しきれなかった。大会前の調子を考えるともう少し上の記録を想定していたので、残念な結果だった。

4) 女子砲丸投

茂山千尋選手(国士舘クラブ)については、現地の最終調整での投げでは、ほぼ問題のないレベルの調整が出来ていた。今季更新した自己ベスト(15m29)に近い記録を期待していたが、結果は14m54という結果に終わった。試合では1投目は良かったが、2投目以降、グライドの入りの部分のリズムが取れず残念な結果だった。しかし、今回の結果から冬期トレーニングでの課題がいくつか本人も認識出来たので、来期に期待したい。

5. 最後に

次回から東アジア大会は、ユース対象の大会に変わるため、東アジア大会としては最後のシニア対象の大会となった。日本、中国以外の国は、重点強化している種目だけ派遣するなど、エントリー人数によってキャンセルになった種目が多くあったことは非常に残念であった。ユースの次回大会ではこのような事のないよう、より多くの選手が出場し、若い競技者の国際経

験の場として機能することを期待したい。

また、今回は、東京で開催された国民体育大会と開催が重なる時期での選手派遣であったため、各都道府県陸上競技協会のご理解に感謝いたしたい。2016年リオデジャネイロオリンピック、更には2020年に開催される東京オリンピックに向け、都道府県との連携を取りながら強化施策を推進していきたい。

第21回世界ハーフマラソン選手権大会

(2014 / コペンハーゲン) 代表選手選考要項

大会期日：2014年3月29日(土)

開催地：コペンハーゲン(デンマーク)

1. 編成方針

リオデジャネイロオリンピックに向けたマラソンの強化の一環として、ロードに適性のある競技者を選考し、国際大会での経験を積ませる。また、トラックで実績のある競技者に、マラソンへの足がかりとしてロード種目の国際大会への挑戦を促す。

2. 選考競技会

(1) 第32回山陽女子ロードレース大会(女子)

<2013年12月23日(祝・月)：岡山>

(2) 第68回香川丸亀国際ハーフマラソン(男子)

<2014年2月2日(日)：丸亀>

(3) 第42回全日本実業団ハーフマラソン大会(男女)

<2014年2月16日(日)：山口>

(4) 第97回日本陸上競技選手権大会・10000m(男女)

3. 種目及びエントリー枠

(1) 種目：男子ハーフマラソン、女子ハーフマラソン

(2) エントリー：各レース最大5名(団体戦は上位3名の得点)

4. 選考基準

(1) 選考競技会(1)～(3)の各大会の日本人トップの競技者。

(2) 選考競技会(1)～(4)の中で日本人上位入賞の競技者。

(3) 学生連合からの推薦選手。ただし、下記の基準記録に達していること。

男子：10000m 28分30秒00

ハーフマラソン 1時間02分00秒

女子：10000m 32分30秒00

ハーフマラソン 1時間11分00秒

5. 選考方法

下記によりエントリー締め切り日までに強化委員会選考会議を経て代表を決定し、3月の理事会にて報告する。

(1) 世界ハーフマラソン選手権代表選考は強化委員会に一任とする。

(2) 選考基準(1)項による内定は該当する成績を取めた時点とする。

(3) 選考基準(2)項による選考は全ての選考競技会終了後、編成方針及び選考基準に則り強化委員会にて選考する。

(4) 選考基準(3)による選考は強化委員会が定める推薦基準に達していることが条件とし(2)項と併せて強化委員会にて選考する。

JOC「体育の日」スポーツ祭り2013 スポーツ教室「陸上競技」開催報告

普及育成委員会 豊田 裕浩

9月に2020年東京オリンピック開催が決定し、スポーツ熱が高まっている中、平成25年度「体育の日」中央記念行事スポーツ祭り2013が、文部科学省他の主催により、味の素ナショナルトレーニングセンター（味の素NTC）で開催された。スポーツ祭りは、多くのオリンピックがさまざまな種目に参加するビッグイベントであり、陸上競技教室は日本陸連普及育成委員会の運営協力で行われた。開催当日の10月14日（祝・月）は天候にも恵まれ、10月中旬とは思えないほどの暑さの中、陸上競技教室には小学生約180名が参加した。参加人数が多かったため、5・6年生は「オリンピックの指導によるスプリント教室」、3・4年生は「チーム対抗のKIDS' Athletics競技会」に分かれて開催された。

<実施内容の詳細>

○「オリンピックの指導によるスプリント教室」

（5・6年生対象）

今回、スプリントの指導者は、5年生は松原薫氏（88年ソウルオリンピック代表・JAAF公認コーチ・国際陸連CECSレベルIIコーチ）、井村久美子氏（08年北京オリンピック代表）の2名、6年生は堀籠佳宏氏（08年北京オリンピック代表）、伊藤友広氏（04年アテネオリンピック代表・国際陸連CECSレベルIコーチ）2名、計4名のオリンピックに担当していただいた。参加者に対し、デモンストレーションを含め、きめ細やかな指導

をしていただくなど、オリンピックから直接指導を受け、さらに日本のトップ選手しか使用できない味の素NTC陸上トレーニング場で走ることができたことは、子どもたちにとって貴重な体験になったと思われる。今回快く講師をお引き受けいただいた4名のオリンピックに心より感謝申しあげたい。

○「KIDS' Athletics競技会」 （3・4年生対象）

本年度も昨年度に引き続き、3・4年生を対象に「KIDS' Athletics競技会」を開催した。今回は80名が参加し、8人×10チームに分かれ、参加者全員が全6種目に挑戦するチーム対抗で行われた。国際陸連準拠によるこのKIDS' Athletics競技会は、すべての運動の基礎となる「走、跳、投」をそれぞれ2種目ずつ含む構成によって行われ、運営、指導は国際陸連公認コーチ有資格の指導者（普及育成委員他）が担当した。さらに今回はオリンピックのハニカット陽子氏（96年アトランタオリンピック代表・国際陸連CECSレベルIコーチ）も指導に参加していただいた。世界各国で実施されているKIDS' Athletics競技会を、今年も開催できたことで競技会は昨年以上に盛り上がり、参加した子どもたちの心を掴んだと思われる。そして、この競技会は、陸上競技への興味関心を高めるきっかけ作りとして、今後も継続して開催していく価値のあるものと感じられた。



アジア陸上競技連盟(AAA)カウンシル会議報告

国際委員長 田中 克之(AAA副会長)

アジア陸上競技連盟(AAA)の第77回カウンシル会議(理事会)が9月21日(土)中国の武漢で開催された。概要は下記の通りである。なお、今回のカウンシル会議はAAA会長がカルマデイ氏(インド)からダハラン氏(カタール)に代わってから実質的には最初の会議であったが、新会長の考え方もはっきりと打ち出され、また多くのカウンシルメンバーからいろいろな意見表明もなされ、従来のカウンシル会議に比べ活発な意見交換が行われたと出席者に感じさせる会議であった。

また、2015年のアジア選手権は「開催地は武漢。開催時期は6月とし詳細は調整する」ことに決定した。なお、アジア選手権の開催時期を巡る議論の中でイスラム圏のメンバーから「ラマダン(イスラム教の断食月)の期間(約1か月続く)が開始時期は毎年異なる。2015年は6月18日~7月16日)の開催は控えてほしい」との意見が出される一方、開催時期に無関心な理事も多かった。「国内選手権、地域選手権、世界選手権の順番で開催するのが最も望ましい開催順であり、これを実現するためにも地域選手権は7月前半開催が良い」とする「まともな意見」が多数となるよう今後努力する必要性が痛感された。

1. 出席者

カウンシル・メンバー：ダハラン会長以下、韓国の理事以外の全メンバーが出席

AAA法律顧問：ロー・リン・コク氏(シンガポール)

武漢市副市長、開会式のみ出席

国際陸上競技連盟(IAAF)からの出席者はなし

2. ダハラン会長開会挨拶内容

ダハラン会長から、今回のカウンシル会議開催に際し中国陸連及び武漢市に対する謝辞、2020年オリンピック開催地が東京に決まった事に対する祝詞等に加え、今後のAAA運営にあたり、会長として次の諸点を念頭に置きたいとの話があった。

(1) コミッションの設立：

AAAの財政逼迫状況等を勘案し、カウンシルを補助する機関としていくつかのコミッションを設置することにした。コミッションはカウンシル会議の前日に会議し、その結果を各コミッションの委員長が翌日のカウンシル会議で発表し、これに基づきカウンシルが議論を行うという形をとりたい。

(2) カウンシルの関与：

全てのカウンシル・メンバーは今後、技術代表、組織代表又は上訴審判としてAAAの大会に関与する事にしたい。

(3) カウンシルが関心を払うべきAAAの問題点：

①AAA主催大会への参加国(地域)数及び参加選手数を増やすこと並びに各大会の競技水準を高めること。

②AAA主催大会にはアジア・ユース選手権が存在しないがこれを是正すること。

③アジア・グランプリへの参加国(地域)数・参加選手数及び競技水準を高めること。

④ジャカルタと北京にあるIAAF地域普及センターの活動内容をアジアが必要とするものに合致させるよう検討すること。

⑤一部の加盟団体はAAA大会を引き受けることに慎重であるが、どうすればこれら加盟団体がより積極的になるかその方途を研究すること。

⑥IAAFのスポンサーの多くはアジアの企業であるが、AAAのスポンサーにはなっていない。その答えは明らかで我々の側でこれらの企業が何を求めているのか、また与えるべき対価についての検討が行われていないことによる。自分は各加盟団体に各々が抱える問題点等についてのアンケート調査を実施しているが未回答のところも多い。回答していない加盟団体には早急に回答してもらいたい(注：日本陸連は回答済)。

⑦AAA事務局の人員を増やす必要がある。また事務局所在地についても良いところがあれば検討することにした。ただ、シンガポール、インドネシア等のようにどの加盟団体所在国からも行きやすい場所が良い。

(4) アジア地域Strategic Planの作成：

IAAFは先般の総会でStrategic Plan(戦略的計画)なるものを取りまとめたが、各地域もこれに相当するような地域版Strategic Planの作成を求められている。IAAFはこの作成にあたり、二つのコンサルティング企業を推薦してきている。これら企業と自分、ドゥ第一副会長(中国)、ニコラス事務総長が協議した上でカウンシルに諮りたい。

3. 今後のAAA主催大会の開催地及び開催期日

(1) 次の通り決定された。

①第6回アジア室内選手権大会

開催地：中国・杭州(Hangzhou)

期日：2014年2月15日~16日

②第12回アジアクロスカントリー選手権大会

開催地：日本・福岡

期日：2014年2月22日

③アジア競歩選手権大会

開催地：日本・能美

期日：2014年3月16日

④ユース・オリンピック・アジア予選

開催地：タイ・バンコク

※タマサート大学スポーツコンプレックス

期日：2014年5月21日~22日

⑤第16回アジアジュニア選手権大会

開催地：台湾・台北

期日：2014年6月13～16日

⑥第21回アジア選手権大会

開催地：中国・武漢

期日：2015年6月（正確な期日は今後決定）

(2) 第21回アジア選手権については、当初、武漢とカタールが立候補していたが、カウンシル会議の場でダハラン会長（カタール）よりカタールは2015年の立候補を辞退する旨の発言があった。他方、武漢は開催時期として5月を希望したが、これについては理事側から次のような意見が表明され、議論の末「開催地は武漢」「開催時期については6月ということ調整する」ことになった。

①「多くの国では、5月は陸上競技のシーズンが始まったばかりで選手のコンディションは十分仕上がっていない状況である。このような時期の選手権大会の開催では一流の選手の参加は望めない。また一流の選手が参加しない選手権大会ではスポンサーも集まらず、マーケティングの観点からも問題であろう。更に同年8月開催の世界選手権を念頭に置くと、各国にとっても国内選手権、地域選手権、世界選手権の順番で開催されるのが一番受け入れ易いはずである。このため武漢で開催する場合には7月前半か6月末にしてほしい」（田中）

②「イスラム圏の選手にとってはラマダンの時期に開催することは避けてもらいたい。2015年のラマダンは6月18日から7月16日になる。従ってこの時期は避ける必要がある」（ダハラン会長）

③「2015年に開催が決まっている世界選手権（北京、8月22～30日）の前にアジア選手権を武漢で開催する場合、アジア選手権を7月に開催することは両者の日程が近くなりすぎて中国陸連は自信を持って諸準備に当たれなくなる。また7月の武漢の気候は暑くて湿度も高く選手にとっては良い環境とは言えない。従って7月開催は是非とも避けてほしい」（ドゥ第一副会長）

前述の通り結論的には、カウンシルの総意として「開催地は武漢」「開催期日については6月で調整する」ことになったが、一部の理事からは議場外で「アジアにはIAAFのA標準やB標準をクリアできる選手が少ない国が多く、このためこれらの国の世界選手権への参加選手はユニバーサリティー枠（各国男女各1名）に基づく者に限られる。その結果「国内選手権、地域選手権、世界選手権の開催順がどのような順番になっても余り影響がない」「イスラム圏の選手の多くはラマダンの食事制限を守っていない。ラマダン時期の大会開催回避との主張は表向きの主張である」とする意見も聞かれた。

多くの国（地域）がアジア選手権の開催時期について余り敏感な反応を示さず、他方においてイスラム圏関係者がラマダンの時期にはアジア選手権を開催すべきではないという主

張を続ける際には、ラマダンの時期は必ずしも6月、7月になるとは限らないのでアジア選手権開催毎に問題になる話ではないものの、「IAAFも推奨する如くもっとも望ましい順番は国内選手権、地域選手権、世界選手権の順であり、この順番を守るためには地域選手権は7月前半に行うのが良い」とする日本等の「まともな意見」が数の力で片隅に追いやられる危険性も懸念される。このような状況に追い込まれないためにも、ラマダンを巡る議論にどのように対処すべきかオリンピック等の先例も調べ、理論武装しておくことが必要ではないかと思われる。

なお、2014年のアジア・グランプリ、及びアジア・オールスターズも話題となったが、後者については開催引き受け国が現れず、また前者については「東南アジアの3か国」あるいは「香港及び中国」ということで今後調整することになった。

4. コミッションの設立について

(1) 前記2（1）に従い、ダハラン会長よりカウンシルの補助機関として次の5つのコミッション、即ち「Competition Commission（CC：競技コミッション）」「Marketing Commission（MC：マーケティングコミッション）」「Development Commission（DC：普及コミッション）」「Youth & School Commission（YSC：ユース&スクールコミッション）」「Medical & Anti-Doping Commission（MADC：医事・ドーピング防止コミッション）」を設立したいとの提案があり、また、その委員長及び委員候補が提示された。

(2) 理事側より「先般のカウンシル会議で委員長及びメンバーが承認されたCommittee（委員会）の一つにMedical Committee（医事委員会）があるが、このメンバーは皆専門家であり、またその主要な任務はドーピング防止である。且つAAAには活動的な委員会が少ない中で医事委員会は大変活発な活動を行ってきた実績がある。この委員会の他によく似た任務内容のコミッションを設立するのは控えるべきである」との意見が出され、多くの理事がこれに同調したため、結局この「Medical & Anti-Doping Commission」の設立は取りやめられた。他方その他のコミッションの設立は認められ、また、各コミッション委員については理事側からの示唆に基づき、若干のカウンシル・メンバーが追加された。

なお、ニコラス事務総長は職権上全てのコミッションに出席発言することが出来ることとなった。

5. その他

ダハラン会長から「アジア地域での陸上競技をよりポピュラーなものとするため、いろいろなことを考えていく必要がある。例えばサッカーについてはビーチ・サッカーも行われ、人気を博している。我々のスポーツもビーチ陸上というものを考えても良いのではないか。陸上競技のどの種目がビーチで実施できるかなど検討してみよう」という発言が行われた。カウンシル・メンバーから特に異論はなかった。

2013年度「キッズアスリート・プロジェクト 夢の陸上キャラバン隊」の開催について

事務局

トップアスリートが全国の小学校を訪問し、デモンストレーションや「走・跳・投」のレッスン等を通じて、陸上競技の魅力や、スポーツの楽しさを伝える「キッズアスリート・プロジェクト 夢の陸上キャラバン隊」。2006年11月に東京都杉並区和田小学校での開催以来、2012年度までに全国55会場で行い、26,453名の参加者、選手の参加は延べ人数で256名になりました。2013年度は、これまで開催していなかった右記の県と離島プロジェクト会場として隠岐の島で実施いたします。今年度で47都道府県全ての都道府県を回り終わります。

【2013年度開催会場】

開催県	開催自治体	開催小学校	開催期日
山梨	南アルプス市	南アルプス市立小笠原小学校	2013年10月11日（金）
茨城	水戸市	水戸市立吉沢小学校	2013年10月25日（金）
島根	隠岐の島町	隠岐の島町立西郷小学校	2013年11月1日（金）
		隠岐の島町立中条小学校	
		隠岐の島町立有木小学校	
		隠岐の島町立磯小学校	
		隠岐の島町立北小学校	
		隠岐の島町立五箇小学校	
		隠岐の島町立都万小学校	
長野	茅野市	茅野市立玉川小学校	2013年11月8日（金）
奈良	三宅町	三宅町立三宅小学校	2013年11月15日（金）
宮崎	都城市	都城市立祝吉小学校	2013年11月29日（金）
沖縄	与那原町	与那原町立与那原東小学校	2014年1月17日（金）

■山梨会場

日 時：2013年10月11日（金）

場 所：南アルプス市立小笠原小学校
（児童数：579人）

後 援：南アルプス市・南アルプス市教育委員会

運営協力：一般財団法人山梨陸上競技協会

協 力：アシックスジャパン株式会社
株式会社セレスポ

参加選手：短距離・石塚祐輔（ミズノ）

ハードル・古川裕太郎（小島プレス）

跳躍・土屋光（モンテローザ）

投てき・畑山茂雄（ゼンリン）

山梨会場は、日本選手権で優勝した畑山茂雄選手をはじめ、石塚祐輔選手、古川裕太郎選手、土屋光選手の4名が参加しました。

デモンストレーションでは石塚選手が力強い走りを見せ、古川選手はパワフルなハードリング、畑山選手が円盤投、ボーテックス投で大投てきを披露。そして



古川裕太郎選手が子どもたちに指導



選手と一緒にリレー対決

走高跳の土屋選手の躍動感あふれる跳躍に、児童からは大きな拍手と歓声が沸き起こりました。レッスンでは、選手と一緒に「走り」「投げ」「跳ぶ」ことができ、子どもたちも夢中になって取り組んでいました。選手

と児童がチームを組んでのガチンコリレー対決では、ゴール直前まで優勝もつれる大接戦の末、土屋選手率いるチームが優勝し、会場はこの日一番の盛り上がりを見せました。

■茨城会場

期 日：2013年10月25日（金）

場 所：水戸市立吉沢小学校（児童数：511人）

運営協力：茨城陸上競技協会

協 力：アシックスジャパン株式会社
株式会社セレスポ

参加選手：短距離・石塚祐輔（ミズノ）

ハードル・大室秀樹（筑波大学大学院）

跳躍・戸邊直人（筑波大学）

投てき・村上幸史（スズキ浜松AC）

茨城会場は、台風27号の影響から体育館で行いました。

走・跳・投のデモンストレーションでは、短距離の石塚祐輔選手が体育館の中の短い距離でしたが、全力疾走を見せてくれました。ハードルの大室秀樹選手は、

1年生の身長ほどあるハードルを跨ぐように走る姿を披露しました。投てきの村上幸史選手は、残念ながら、グラウンドのような大放物線を披露できなかったですが、ボーテックスを体育館の天井にやすやすと当ててみせたり、スピードを上げたライナー性の投てきを見せました。跳躍の戸邊直人選手は、ロイター板を使いましたが、はさみ跳びで2m00cm、背面跳びで2m30cmの大跳躍を披露し、体育館は子どもたちの大歓声に包まれました。レッスンは、6年生82名が各パートに分かれて行われました。人数をしばったこともあり、濃密なレッスンができました。リレー対決は、6年生の各クラス選抜チームと選手チームで行いました。

給食では、6年生3クラスに選手が招かれ、子どもたちとの懇親が行われました。



戸邊直人選手による、走高跳デモンストレーション（2m30cm）



選手と子どもたちのハイタッチでイベント終了

キッズアスリート・プロジェクト 特設Webサイト <http://www.jaaf.or.jp/kids>

各会場のレポートやトップアスリートによるワンポイントレッスンも掲載しています。

2013数字で見る陸上競技Vol.3 都道府県別日体協公認指導者数(陸上競技)

事務局

2013数字で見る陸上競技、3回目の今回は陸上競技における日本体育協会公認スポーツ指導者資格有資格者数(都道府県別、資格別)をご紹介します。なお、今回ご紹介する数字は、2013年10月30日付け登録者数です。

	都道府県名	JAAF公認コーチ		JAAF公認ジュニアコーチ		合計
		上級コーチ	コーチ	上級指導員	指導員	
1	北海道	14	16	0	24	54
2	青森県	5	10	4	21	40
3	岩手県	8	19	2	3	32
4	宮城県	2	5	0	29	36
5	秋田県	0	9	0	11	20
6	山形県	6	13	0	20	39
7	福島県	3	23	0	124	150
8	茨城県	12	21	1	20	54
9	栃木県	6	9	0	8	23
10	群馬県	5	25	1	63	94
11	埼玉県	16	35	2	53	106
12	千葉県	13	41	3	30	87
13	東京都	36	53	6	140	235
14	神奈川県	11	35	0	38	84
15	山梨県	4	10	12	23	49
16	新潟県	7	21	12	25	65
17	富山県	1	5	0	64	70
18	石川県	3	4	3	33	43
19	福井県	2	15	0	43	60
20	長野県	7	25	3	33	68
21	静岡県	7	20	8	55	90
22	愛知県	6	26	0	32	64
23	岐阜県	6	16	5	16	43
24	三重県	4	24	3	11	42
25	滋賀県	5	18	0	15	38
26	京都府	7	31	0	26	64
27	大阪府	6	11	3	12	32
28	兵庫県	6	16	2	10	34
29	奈良県	3	14	0	17	34
30	和歌山県	6	10	0	85	101
31	鳥取県	4	7	0	30	41
32	島根県	4	4	0	7	15
33	岡山県	7	15	0	10	32
34	広島県	9	14	3	64	90
35	山口県	6	12	5	43	66
36	徳島県	1	4	1	14	20
37	香川県	4	18	0	3	25
38	愛媛県	6	18	0	10	34
39	高知県	1	16	2	24	43
40	福岡県	11	14	4	32	61
41	佐賀県	2	6	1	9	18
42	長崎県	3	13	12	15	43
43	熊本県	7	11	4	26	48
44	大分県	3	12	23	36	74
45	宮崎県	1	14	4	35	54
46	鹿児島県	2	15	1	40	58
47	沖縄県	5	5	5	18	33
		293	778	135	1,500	2,706

2013数字で見る陸上競技Vol.4 都道府県別高校生陸上競技部員割合

事務局

2013数字で見る陸上競技、4回目の今回は、高校生の陸上競技部員の全高校生生徒数における割合を都道府県別にご紹介します。

2012年度の日本陸上競技連盟における高校生登録者を、同年度の高校生生徒数（文部科学省調べ）で割ったものです。

【算出方法】 割合(%) = (高校生陸連登録者数) ÷ (高校生全生徒数) × 100

都道府県名	2012年度高校生 陸連登録者数	前年比	前年数	2012年度高校生 全生徒数	2012年度割合	2011年度高校生 全生徒数	2011年度割合
北海道	4,252	-50	4,302	139,147	3.1%	140,711	3.1%
青森	1,709	111	1,598	40,037	4.3%	40,878	3.9%
岩手	1,769	121	1,648	37,533	4.7%	38,374	4.3%
宮城	2,525	178	2,347	62,424	4.0%	62,555	3.8%
秋田	1,507	55	1,452	28,724	5.2%	29,264	5.0%
山形	1,609	99	1,510	33,511	4.8%	33,893	4.5%
福島	2,051	109	1,942	57,343	3.6%	58,962	3.3%
茨城	2,163	-18	2,181	79,826	2.7%	80,494	2.7%
栃木	1,462	81	1,381	55,316	2.6%	55,620	2.5%
群馬	1,732	72	1,660	54,133	3.2%	53,743	3.1%
埼玉	5,380	763	4,617	177,631	3.0%	175,838	2.6%
千葉	5,333	459	4,874	151,537	3.5%	149,103	3.3%
東京	8,187	2,512	5,675	315,341	2.6%	313,870	1.8%
神奈川	5,628	394	5,234	201,387	2.8%	198,436	2.6%
新潟	2,493	206	2,287	63,642	3.9%	64,974	3.5%
富山	1,149	169	980	29,279	3.9%	28,753	3.4%
石川	1,303	76	1,227	32,352	4.0%	32,249	3.8%
福井	738	-3	741	23,748	3.1%	23,751	3.1%
山梨	986	-86	1,072	27,319	3.6%	27,467	3.9%
長野	1,758	2	1,756	60,331	2.9%	60,170	2.9%
岐阜	2,112	113	1,999	57,276	3.7%	57,002	3.5%
静岡	4,220	187	4,033	101,507	4.2%	101,628	4.0%
愛知	7,310	210	7,100	194,965	3.7%	192,780	3.7%
三重	2,127	57	2,070	50,645	4.2%	50,654	4.1%
滋賀	1,483	145	1,338	38,954	3.8%	38,606	3.5%
京都	2,331	143	2,188	71,903	3.2%	71,092	3.1%
大阪	5,888	638	5,250	232,159	2.5%	227,181	2.3%
兵庫	5,524	310	5,214	144,054	3.8%	142,961	3.6%
奈良	1,170	-36	1,206	37,866	3.1%	37,903	3.2%
和歌山	859	31	828	29,203	2.9%	29,343	2.8%
鳥取	788	90	698	16,377	4.8%	16,649	4.2%
島根	851	45	806	19,580	4.3%	20,045	4.0%
岡山	1,506	179	1,327	54,925	2.7%	54,401	2.4%
広島	2,765	38	2,727	75,275	3.7%	75,417	3.6%
山口	1,682	130	1,552	36,042	4.7%	36,282	4.3%
徳島	553	-38	591	20,602	2.7%	20,801	2.8%
香川	928	29	899	26,111	3.6%	25,965	3.5%
愛媛	1,357	13	1,344	36,829	3.7%	37,189	3.6%
高知	596	-22	618	20,746	2.9%	21,086	2.9%
福岡	3,938	441	3,497	133,531	2.9%	133,138	2.6%
佐賀	1,232	50	1,182	26,240	4.7%	26,477	4.5%
長崎	1,926	64	1,862	42,495	4.5%	43,391	4.3%
熊本	1,460	-35	1,495	51,113	2.9%	51,553	2.9%
大分	1,017	182	835	33,746	3.0%	33,865	2.5%
宮崎	1,021	139	882	34,364	3.0%	34,446	2.6%
鹿児島	1,462	137	1,325	50,232	2.9%	51,532	2.6%
沖縄	696	-3	699	48,308	1.4%	48,763	1.4%
合 計	110,536	8,487	102,049	3,355,609	3.3%	3,349,255	3.0%

※高校生全生徒数は、文部科学省ホームページ統計情報（http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/main_b8.htm）内、学校基本調査の高等学校（通信教育を含む）>全日制・定時制 学年別生徒数 からの抜粋

大会観戦ガイド

いよいよ駅伝&マラソンシーズン到来！

来年の仁川アジア競技大会に向けて奮闘する選手たちにぜひご注目下さい！

第5回横浜国際女子マラソン大会 兼第17回アジア競技大会(2014/仁川) 代表選手選考競技会

2008年を持って30年の歴史に幕を閉じた東京国際女子マラソンを受け継ぐ、横浜国際女子マラソンの第5回大会。昨年参加資格を変更し、より多くの方が参加出来るようになりました。

来年の仁川アジア競技大会女子マラソン代表をかけた争いを応援ください！

▼日時：11月17日(日)12時10分スタート

▼場所：山下公園前スタート～横浜市内～山下公園内フィニッシュ

▼アクセス(山下公園)：みなとみらい線「元町・中華街駅」より徒歩3分、JR・市営地下鉄「桜木町駅」より市営バス26系統「山下公園前」下車徒歩1分

▼参加標準記録：

フルマラソン 3時間15分以内

30km 2時間10分以内

ハーフマラソン 1時間25分以内

▼問合せ先：神奈川陸上競技協会
「横浜国際女子マラソン大会事務局」

TEL：045-210-9660 / FAX：045-210-9667

▼テレビ放映予定：テレビ朝日系列など12:00～14:55

▼日本陸連HP内大会ページ

<http://www.jaaf.or.jp/taikai/1092/>

公式ホームページ

<http://www.yokohamawomensmarathon.com/mention.html>

ター下車

▼コース：千葉市(千葉県総合スポーツセンター陸上競技場をスタート・フィニッシュとし、ポートタワー・QVCマリンフィールド・幕張メッセ・幕張ベイタウンを通る日本陸連公認マラソンコース42.195km)

【区間】6区間(男子3区間、女子3区間)

- ・1区(男子5km)千葉県総合スポーツセンター陸上競技場～千葉市中央区道場北
- ・2区(女子5km)千葉市中央区道場北～千葉県立美術館前
- ・3区(男子10km)千葉県立美術館前～千葉市美浜区磯辺2丁目
- ・4区(女子5km)千葉市美浜区磯辺2丁目～幕張メッセ前
- ・5区(男子10km)幕張メッセ前～千葉市立花園小学校前
- ・6区(女子7.195km)千葉市立花園小学校前～千葉県総合スポーツセンター陸上競技場

▼テレビ放映予定：フジテレビ系全国ネット生中継

▼参加国・チーム(予定)：日本・オーストラリア・ニュージーランド・アメリカ・カナダ・フランス・ドイツ・ロシア・ルーマニア・ケニア・ウクライナ・日本学生選抜・千葉県選抜 全11カ国13チーム

▼問合せ先：国際千葉駅伝事務局(本局)

TEL：043-285-5891

▼日本陸連HP内大会ページ

<http://www.jaaf.or.jp/taikai/1093/>

公式ホームページ

<http://www.inter-chibaekiden.jp/>

青木半治杯 2013国際千葉駅伝

男女混合の駅伝となって7回目を迎える国際千葉駅伝！昨年、屈辱の2位であった日本チームの3年ぶりの優勝はなるか、千葉を舞台に繰り上げられる熱戦にご期待下さい。

▼日時：11月23日(祝・土)13時07分スタート

▼会場(スタート・フィニッシュ)：

千葉県総合スポーツセンター陸上競技場

▼アクセス：千葉県総合スポーツセンター陸上競技場

JR千葉駅東口 千葉都市モノレール スポーツセン



去年の1区

第67回福岡国際マラソン選手権大会 兼第17回アジア競技大会(2014/仁川) 代表選手選考競技会

男子マラソンのトップランナーが福岡に集結！ 仁川アジア競技大会代表の座を巡って、白熱の戦いを展開します。日本屈指の実力者たちが世界の強豪に挑みます。

- ▼日時：12月1日（日）12時10分スタート
- ▼会場（スタート・フィニッシュ）：
福岡・平和台陸上競技場
- ▼アクセス：平和台陸上競技場
 - ・福岡市営地下鉄「大濠公園」駅下車徒歩8分
 - ・西鉄バス「大手門」バス停下車徒歩5分
- ▼コース：福岡朝日国際マラソンコース（平和台陸上競技場・大濠公園～福岡市西南部周回～香椎折り返し）
42.195km

▼参加標準記録：

【Aグループ】 マラソン	2時間27分以内
30km ロードレース	1時間35分以内
ハーフマラソン	1時間05分以内
【Bグループ】 マラソン	2時間40分以内
30km ロードレース	1時間50分以内
ハーフマラソン	1時間10分以内

- ▼テレビ放映予定：テレビ朝日系列
12月1日（日）12：00～14：30（30局ネット）
- ▼問合せ先：福岡国際マラソン事務局
（朝日新聞社西部企画事業チーム内）
TEL：092-411-1137
- ▼日本陸連HP内大会ページ
<http://www.jaaf.or.jp/taikai/1094/>
公式ホームページ
<http://www.fukuoka-marathon.com/info.html>

“日清食品カップ” 第16回全国小学生クロスカントリー リレー研修大会

全国から小学生の精鋭たちが大阪に集結！ 一生懸命走る金の卵たちに、大きなご声援をお願いします！
今年度より日程が12月に変更となりました。

- ▼日時：12月8日（日）
- ▼会場：大阪・万博記念公園特設コースほか
- ▼アクセス：
◇大阪モノレール「万博記念公園駅」もしくは「公園東口駅」
- ▼種目：
◇11：00友好タイムトライアルレーススタート
チーム対抗リレーに参加できなかった50チームの男女各1名が出場。
◇11:20チーム対抗クロスカントリーリレースタート
全国50チームが参加、6区間の総合タイムで順位を決定。1・3・5区が女子選手、2・4・6区が男子選手。
- ▼出場チーム：各加盟団体の推薦を受けた、全国47都道府県から各1チームと開催地（大阪）から3チームの、合計50チームが出場。
- ▼問合せ：日本陸上競技連盟事務局 担当：額田・鈴木
TEL 03-5321-6580 / FAX 03-5321-6591
- ▼日本陸連HP内大会ページ：

<http://www.jaaf.or.jp/taikai/1095/>



去年のチーム対抗クロスカントリー

JAAF
SAGA

一般財団法人佐賀陸上競技協会

〒840-0852 佐賀市中折町10-18 高橋正秀様方
TEL.0952-23-8961 FAX.0952-23-8961
http://www.sagarikujyo.jp/

10月の東京国民体育大会が終了、陣内綾子選手（九電工）が800mで優勝、成年の部で男子800m上妻昇太選手（福岡大学）5位、女子5000m光延友希選手（京セラ）6位、少年Aの部で男子5000m光延誠選手（鳥栖工業高校）6位、女子3000m平井見季選手（白石高校）8位の成績で天皇杯37位という結果だった。

また、今年4月より100mHの紫村仁美選手が佐賀県の三養基高校に教員として採用され、アジア選手権、世界選手権に出場、地元でも先生ハードラーとして注目を浴びている。是非、高校生の選手強化に頑張ってもらいたい。

平成26年4月6日さが桜マラソン2014が開催される。今回はフルマラソン、ファンラン（約10km）の2種目を11月5日より募集開始する。前年、出場選手からの全国4位という評価をうけ、今年も前回以上の評価を受けるよう準備を進めております。全国各地からのマラソン選手の参加申込をお待ちしております。

JAAF
KUMAMOTO

一般財団法人熊本陸上競技協会

〒861-8046 熊本市石原2-9-1 熊本県民総合運動公園内
TEL.096-388-1688 FAX.096-388-1688
http://www.kumariku.org/

熊本陸協は、熊本出身で日本初のオリンピック選手である“マラソンの父”金栗四三の伝記「走れ25万キロ」を8月20日、熊本日日新聞社と共に発行した。金栗は明治45年、日本初参加のストックホルム・オリンピックを皮切りにアントワープ（大正9年）、パリ（同13年）と三つの大会に出場。箱根駅伝の生みの親としても知られる。高地トレーニングやインターバルなどの練習法を創意工夫し、女子体育の振興にも力を注ぐなど“国民健康の父”でもあった。昭和35年、長谷川孝道記者（のち熊本陸協会長）によって熊本日日新聞に連載、翌年単行本として出版されたものを復刻し、余話として晩年の金栗にまつわる出来事等も加えた。A5判、347ページ、1,575円（税別）

水前寺競技場（熊本市）は、施設の老朽化で日本陸連の公認を受けられず、公式大会ができない状態が続いている。同競技場は昭和25年に竣工。翌26年にはこけら落としの日米親善陸上、同29年は全国高校陸上、さらに金栗翁が炬火最終ランナーを務めた熊本国体（同35年）など数々の大会が開かれ、かつては「記録の出る競技場」として有名だった。現在、公認のための整備について熊本市と折衝中。

第38回甲佐10マイルロードレースは12月1日。第14回大会の覇者・森下広一はバルセロナオリンピック・マラソンで銀メダリストとなった。マーティン・マサシの44分41秒（第29回大会）は実質上の世界最高記録。日本人の最高は第21回大会で川嶋伸次がマークした45分52秒。
（文責：企画・広報部長 永廣憲一）

JAAF
NAGASAKI

一般財団法人長崎陸上競技協会

〒854-0061 諫早市宇都町27-1
一般社団法人 長崎県公園緑地協会管理事務所分室内
TEL.0957-21-1921 FAX.0957-21-1921
http://jaaf-nagasaki.net

第69回国民体育大会（長崎がんばらんば国体）・第14回全国障害者スポーツ大会（長崎がんばらんば大会）を来年に控え、去る10月12日県立総合運動公園陸上競技場で国体開催365日前の「長崎がんばらんばフェスタin諫早」と称しメインゲストに京都・洛南高校の桐生祥秀選手と車いすアスリートの副島正純選手をお迎えして開催しました。

開催都市（諫早市）では7競技が開催されますのでその競技体験も実施されました。陸上競技に於いては、主に小学生やその保護者を対象に100分の1まで計測する50m走と、総てを対象とした3.65時間たすきリレーマラソン大会を実施しました。その他、副島選手と桐生選手のトーク&デモンストラーション、○×クイズ、桐生選手との記念撮影会等企画があり3000人余の参加者で大いに盛り上がり1年後の本大会が楽しみな1日になりました。

（文責：総務部長 藤島義信）

JAAF
OITA

一般財団法人大分陸上競技協会

〒870-0931 大分市西浜1-1 大分市陸上競技場3階
TEL.097-552-7808 FAX.097-552-7806
http://www.d-b.ne.jp/oita-rik/

去る7月28日から5日間にわたって、大分スポーツ公園大分銀行ドームで開催された秩父宮賜杯第66回全国高等学校陸上競技対校選手権大会は、お陰をもちまして無事盛會裏に終了することができました。これもひとえに、関係各位のご支援ご指導ご賜物と紙上をお借りして、深く感謝申し上げます。さて、規模の面で国内最大級と目される全国高校総体は、本県にとりまして、1964年東京オリンピックの翌年に開催して以来、48年ぶりのビッグイベントでした。今回、桐生祥秀選手効果も手伝って、大会期間中、延べ10万人を超える空前絶後の観客が見守る中、日本高校新記録2個、大会新記録15個の成果を収めることができ、安堵したところです。

当協会といたしましては、2005年以来、2巡目国体のリハーサル大会として、第60回九州選手権大会をはじめ、第54回全日本実業団対抗選手権大会、第23回日本ジュニア選手権大会と併せて、記念すべき第11回日本ユース選手権大会、第63回国民体育大会、引き続き第36回全日本中学校選手権大会と、5年連続大規模競技会を実施してまいりました。

また、昨年、第67回九州陸上競技選手権大会をインターハイのりハとして開催し、県高体連をはじめ、関係機関・団体と緊密な連携を図りながら、万全の態勢で本大会に臨むことができました。

改めて、関係者の皆様方に厚くお礼を申し上げますとともに、これを機に、更なる競技会運営の充実及び競技会の向上等に、最善を尽くす所存であります。
（文責：副会長兼理事 濱本俊夫）

陸協NEWS

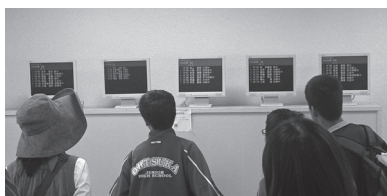


JAAF
MIYAZAKI

一般財団法人宮崎陸上競技協会

〒880-0022 宮崎市大橋2-6-1 ヤヨイビル5階
TEL.0985-25-6011 FAX.0985-25-6011
<http://www.miyariku.org/>

昔日の競技会運営を経験した者には隔世の感がある。本県でも平成4年度全国高校総体宮崎大会を機に導入したコンピューターによる大会運営システムは、その後改良を重ね現在に至っている。今では、競技者係が受け付けたデータは、トラック競技では、写真判定員、アナウンサー、記録員にサーバーで結ばれ、出発係にはペーパーのスタートリストが届いている。フィールド競技でも、各ピットに配置したパソコンに接続しており、競技の記録もその場で入力することができる。トラック・フィールド競技とも終了と同時にその結果は、競技場玄関に5台、本部に1台、フィニッシュ地点後方に1台設置したディスプレイに速報記録として表示されるが、選手、観客それに審判員の評価が高い。近い将来、出発係にタブレットを携帯させることで、スタートリストも人の手を煩わせることがなくなり、多くの審判員が情報の同時共有化を図ることができる。記録情報担当者のためまい努力と工夫が現システムをついに完成させることとなる。



玄関前の記録速報ディスプレイを見る観客や選手等

JAAF
KAGOSHIMA

一般財団法人鹿児島陸上競技協会

〒890-0062 鹿児島市与次郎2-2-2 県立鴨池陸上競技場内
TEL.099-259-6053 FAX.099-299-6054
<http://www3.synapse.ne.jp/karikupage/>

平成25年のスポーツ界は、体罰・暴力、セクハラ・パワハラなど暗いニュースで年が明け、天候的に表現すれば暴風雨の吹き荒れた状態で、憂鬱なスタートとなりました。

さて、本協会も一般財団法人化に向けて鋭意取り組んできてまいりましたが、計画よりも1カ月遅れで認可・登記をしました。このターニングポイントに立って、本会の定款の目的に、陸上競技の普及・振興と競技力の向上の2本柱に加えて、県民の健康の維持増進及び青少年の健全育成並びにスポーツ文化の向上に寄与することを謳いました。

この目的に沿って、細則にはコンプライアンスの徹底に関する章を設け、陸上競技人としての自負と矜持を保持しつつ、公正・公平な態度を涵養することや、本協会の活動は、アスリートの活動を支援する尊い社会貢献活動の一環であることを理解して取り組むことを表記しました。

また、特に青少年を対象に陸上競技の指導にあたる者は、スポーツ教育の観点に立った指導や活動の推進に努めることを謳いました。これは、昨今の不祥事を受けて謳ったものではなく、当初から原案に含まれていた内容で、スポーツの健全な振興を誓うものでした。

2020年のオリンピック・パラリンピックの東京開催が決定し、長いトンネルから抜け出して、やっと明るい陽射しが見えてきました。この年は第75回国民体育大会を本県で開催することになっています。スポーツの力を発揮するステージが整いました。

(文責：理事長 山方博文)

JAAF
OKINAWA

沖縄陸上競技協会

〒900-0027 沖縄県那覇市山下町18-26
沖縄県住宅供給公社2階B棟208号室
TEL.098-996-2881 FAX.098-996-2882
<http://www.jaaf-okinawa.jp/>

沖縄の中学生の陸上競技の現状と活躍について紹介いたします。

陸上部（年間を通した活動）設置率が他都道府県と比較すると非常に低く、部活動として陸上競技に取り組む環境が困難な状況にあります。しかし、夏場から秋の地区・県陸上、地区・県駅伝大会に向けて、他競技を兼ねて陸上競技に取り組む活動があり、全学校が全職員体制で臨みます。他競技に携わっている顧問や保護者の理解で、陸上競技の楽しさを体験でき、沖縄全土が今一番盛り上がっています。10月19日に県秋季中学陸上を宮古島市で開催し、男子ジャベリックスローにて久辺中学校の比嘉選手が、従来の県中学記録を6m更新する82m67の県中新を誕生させました。ジュニアオリンピック競技大会では、前年に続き沖縄県勢が全国制覇を致しました。秋の男子ジャベリックスローは、今大会でも3位が68mというレベルで今後の記録向上が楽しみです。1年女子走幅跳では29年ぶりに5m07の県中新を与那国中学校の前底希光選手が誕生させ今後の成長が楽しみです。国民体育大会（スポーツ祭東京2013）には、B男子砲丸投に花城正太郎選手（羽地中）、B女子100mHに大城有利加選手（豊見城中）、リレーに三上貴之選手（伊波中）の3名の中学生が参加しました。高校での活躍が期待されています。来年の香川全中、長崎国体、長崎九州中学では、他県に少しでも追いつけるように、冬季は沖縄陸協強化部の小中高大の合同練習や陸上教室で走り跳び投げまわります。沖縄の陸上競技の支えてくれる皆様に感謝し、期待に応えるべく頑張ります。応援よろしくお願いします。（文責：中体連代表 比嘉共樹）

事務局からのお知らせ

◆◆公式動画サイトに、日本選手権リレー・ジュニアオリンピックを公開!◆◆



昨年のジュニアオリンピックの様子

日本陸連公式動画サイト“JAAF JAPAN ATHLETICS TV”では、10月25日(金)～27日(日)に神奈川・日産スタジアムで開催した第97回日本陸上競技選手権リレー競技大会、第44回ジュニアオリンピック陸上競技大会の全種目の動画をアップしています! リザルトを見ながら高品質の動画をぜひお楽しみ下さい!

アクセスは <http://japanathletics.tv/> まで



◆◆メールマガジン配信中!◆◆

日本陸連公式メールマガジン「JAAFアスレティックメール」を好評配信中です。
登録は<http://mm.jaaf.or.jp/mailmagazine>か、右のQRコードから!

◆◆F・W・ストレンジ氏 生誕160周年の会を開催致しました◆◆

日本において陸上競技、ボート、野球をはじめとするスポーツの普及に尽力し「日本近代スポーツの父」と言われるF・W・ストレンジ(フレデリック・ウィリアム・ストレンジ)氏の生誕160周年の会の式典を2013年10月29日、青山霊園(東京都港区南青山)にある墓前に行いました。



あいにくの雨になりましたが、多くの関係者が集まり、日本におけるスポーツの土台を築いた同氏の功績に感謝するとともに、今後ますますの隆盛を祈りました。また、ストレンジ氏の墓所を管理している本連盟では、この式典にあわせ、同氏の石碑を建立し同日にお披露目しました。

1853年10月29日にイギリス・ロンドンで生まれたストレンジ氏が英語教師として日本に来日したのは、1875(明治8)年3月。スポーツマンシップを説き、日本ではじめてのスポーツのガイドブックの刊行、運動会の普及、「部活」のシステム作りに14年間にわたり尽力されました。

陸連時報編集委員

◇編集委員

横川 浩(陸連会長)
三宅 勝次(陸連副会長)
友永 義治(陸連副会長)
尾縣 貢(陸連専務理事)
原田 康弘(陸連強化委員長)
風間 明(陸連事務局長)
高橋 克実(陸上競技マガジン編集長)

◇時報編集室責任者

森 泰夫
◇時報編集担当
繁田 進
石塚 浩
木越 清信
宮田 宏
本田香代子
森谷 真咲

陸連時報編集室

〒163-0717
東京都新宿区西新宿2-7-1
小田急第一生命ビル17階
公益財団法人日本陸上競技連盟 内
TEL 03-5321-6580
FAX 03-5321-6591
ウェブサイト <http://www.jaaf.or.jp/>
公式動画サイト <http://japanathletics.tv/>